





# 審査結果報告書

平成 28 年 2 月 9 日

主査 氏名 阿古 潤哉 

副査 氏名 岡本 浩嗣 

副査 氏名 宮下 俊之 

副査 氏名 増田 卓 

1. 申請者氏名 : DM12011 北川 篤史

2. 論文テーマ :

Clinical utility of the plasma brain natriuretic peptide level in monitoring tetralogy of Fallot patients over the long term after initial intracardiac repair: considerations for pulmonary valve replacement]

(ファロー四徴症術後遠隔期における血漿ナトリウム利尿ペプチド測定 of 臨床的有用性: 肺動脈弁置換術

3. 論文審査結果 :

ファロー四徴症 (TOF) に対する心内修復術により、TOF の長期予後は格段に改善した。しかし、術後に進行性の肺動脈弁閉鎖不全症による右室の拡大と機能不全、突然死などを来すことが臨床的に問題となってきた。TOF の術後の患者に対する肺動脈弁置換術は肺動脈弁閉鎖不全を改善し、右室機能を回復し、突然死を減らす可能性が示されている。このため、肺動脈弁置換術を行う至適な時期を臨床的に探ることが必要であった。

学位申請者は、北里大学病院に通院中で 10 歳以上の TOF 術後症例 33 例を対象とし、前症例で心臓超音波、心電図検査、血液検査 (BNP 測定を含む) を行った。肺動脈弁置換術は右室機能不全に起因する症状を有する 7 症例に施行された。学位申請者は、肺動脈弁閉鎖不全の重症度と BNP が相関があり、しかも心不全による症状がある群に高いことを見いだした。心不全症状を有する症例を同定するためのカットオフ値は 32.15pg/ml であることを見いだした。

学位論文は臨床症例からのデータを用いた研究手法に立脚し、新たな知見を見いだしている。公開審査では、申請者は副査及び主査からの質問に適切な返答が可能であった。副査及び主査は、学位論文の内容の高さ、質疑応答の的確さから医学博士の学位にふさわしいと判断した。